

資料2

平成28年度

鶴見区運営方針  
実績・評価

鶴見区役所

# こども・教育部会

- 所管する経営課題  
経営課題3 次世代育成に向けたまちづくり

## 経営課題3

### 次世代育成に向けたまちづくり



#### 3 - 1 安心して子育てできる環境づくり

##### 【めざす状態】

- ・ 地域ぐるみで安心して子どもを生子、育てられる環境の整備が進んでいると感じる区民の割合を増やす。

##### 【戦略】

地域の関係団体・関係機関と連携し、区民が安心して子どもを生子、育てられる環境づくりを進めていく。

# 子育て支援の充実

## 計画

関係機関等と連携し、待機児童の解消、子育て層の交流の場の設定及び児童虐待防止など子育て支援に取り組む。

## 目標

子育てについて「楽しいと思うことの方が多い」と感じる保護者の割合  
65%以上

## 実績

- 「愛Loveこどもフェスタ」の開催 1回
- 「つるみっ子ルーム」の利用率97%
- 地域や関係者等と連携した児童虐待防止啓発活動の実施 20回
- 児童虐待防止学習会・講演会等の開催 3回
- 関係局との保育ニーズ検討会議 2回
- 保育環境の充実に向けた園への働きかけ 26保育所



**愛Loveこどもフェスタ**  
5月20日開催  
参加者800人



**愛Loveこどもフェスタ**



**つるみっ子ルーム事業**



**つるみっ子ルーム事業親子参加型講習会**

3月2日開催  
参加者14組の親子

## 評価

子育てについて「楽しいと思うことの方が多い」と感じる保護者の割合

目標

65%  
以上

結果

69.0%

3割の保護者は子育てについて「楽しいと思うことの方が多い」と感じていないことから、子育てに対する不安感や負担感を持つ家庭に対する支援をより充実する必要がある。

## 29年度の 取組み

- 子育て層の交流の場の設定など、子育て支援施策を実施する。
- 関係先と連携し児童虐待ケースに対応するとともに、児童虐待の早期発見と防止のため、啓発活動に取り組む。
- 保育ニーズを勘案し、関係先と連携を図りながら、保育環境の整備に努め、待機児童の解消に取り組む。



## 経営課題3

### 次世代育成に向けたまちづくり



#### 3 - 2 子ども・青少年の健全育成

##### 【めざす状態】

- 家庭、学校、地域住民が一体となって、社会性を身につけ、心身ともに健全に育つ青少年の割合を増やす。

##### 【戦略】

- 鶴見区青少年育成推進会議を中心として、各種イベントに参加する青少年や保護者を通じて広く地域・家庭との連携を進め、青少年の健全育成に向けて取り組む。
- 次世代を担う子ども・青少年が、将来の夢をふくらませ、世界に目を向けるきっかけとなる取組みを図る。

## 地域と連携した青少年の健全育成の取組



### 計画

歌やダンス等の活動をしている区内高校生や青少年グループに、日頃の活動成果を発表する機会を提供するとともに、関係機関と連携した非行防止啓発活動等を実施するなど、青少年健全育成の取組みを推進する。

### 目標

各事業が青少年健全育成としての有効な取組みになっていると回答した参加者の割合65%以上

### 実績

- 高校軽音ライブクリーンプロジェクト
- 青少年健全育成鶴見区民大会
- こどもの環境ととのえ隊(鶴見緑地公園内夜間巡視)
- 青少年カーニバル





### 高校軽音ライブクローンプロジェクト

5月1日開催(鶴見緑地)

参加者約1,000人



### こどもの環境ととのえ隊

8月9日実施(鶴見緑地)

参加者約50人



### 青少年健全育成鶴見区民大会

7月3日開催(鶴見区民センター)

参加者約700人



### 青少年カーニバル

10月10日開催(鶴見緑地)

参加者約1,200人

## 評価

各事業が青少年健全育成としての有効な取組みになっていると回答した参加者の割合

### 目標

65%  
以上

### 結果

88.7%

中高生が日頃の活動成果を発表する場が少ない。また、家庭・学校園・地域と連携し、継続的な取組みが必要である。

## 29年度の 取組み

- 高校軽音ライブクリーンプロジェクトの会場数を3会場から4会場に増やし、より多くの高校生の活動発表の機会を提供し実施した。【5月7日(日)鶴見緑地】  
28年度 18校36組の参加      29年度 24校48組の参加  
公園内の清掃範囲を拡大してクリーン活動を実施
- 青少年健全育成鶴見区民大会の2部を中学校吹奏楽部が活動発表できる場として提供する。

## 経営課題3

# 次世代育成に向けたまちづくり



### 3 - 3 区役所による教育の支援

#### 【めざす状態】

- 区役所が、学校や地域、保護者の教育行政に関するニーズを把握し、学校と連携した取組みができている。

#### 【戦略】

- 区役所が、学校や地域、保護者のニーズや意向を把握して効果的な学校の支援を行えるような取組みを進める。
- 次世代を担う子ども・青少年が、将来の夢をふくらませ、世界に目を向けるきっかけとなる取組みを図る。

# 教育支援の充実

## 計画

学校、地域、保護者の教育に対するニーズを把握するための仕組みとして、区政会議部会や教育行政連絡会、学校協議会等を通じた情報共有を行う。

## 目標

学校や地域、保護者の意見が反映する取組みが進んでいると思う、学校協議会委員の割合を50%以上

## 実績

- 区政会議の部会
- 教育行政連絡会(学校長と区役所による連絡調整、協議の場)  
小・中学校 各3回
- 学校協議会  
市立幼稚園、小・中・高校(20校園)にて各3回
- 校長会・教頭会への参画 毎月1回
- 校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援 17校
- 発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援 14校

## 校長経営戦略支援予算【590万円】

平成28年度から、区長(区担当教育次長)が教育行政にかかる事業を企画・立案して執行できる「校長経営戦略支援予算(区担当教育次長執行枠)」が設けられ、学校のニーズを踏まえた施策を各区で実施することとなった。

### 平成28年度の実施



教育活動サポート事業  
【課外活動(クラブ活動・校外活動・委員会活動など既存のサポート以外)のサポート】

小・中学校  
411万8千円



漢字能力判定に向けた取り組み支援事業

小学校  
26万4千円



ICT機器購入  
【デジタル教科書・プロジェクター  
スクリーン・書画カメラ等】

中学校  
151万8千円

## 評価

学校や地域、保護者の意見が反映する取組みが進んでいると思う、学校協議会委員の割合

## 目標

50%  
以上

## 結果

89.5%

小・中学校に在籍する発達障がい等のある児童・生徒に対してサポーターを配置し、学校生活における行動面を支援しているが、学校からの申請に対して十分な時間を配置できていない。

## 29年度の 取組み

・小・中学校に配置している発達障がいサポーターの稼働時間を拡充し、学校生活を支援している。

予算額及びサポーター配置時間	平成28年度	2,016千円	2,076時間
	平成29年度	4,010千円	3,922時間

サポーター配置人数	平成28年度	25人	平成29年度	41人(6月16日現在)
-----------	--------	-----	--------	--------------





## 異文化・英語に親しむ

### 計画

小学生が異文化にふれる機会の提供や、中学生対象に、英語に親しみ外国に対する興味や関心を高める機会を提供する。

### 目標

英語や外国に対する関心が高まったと回答した参加者の割合 60%以上

### 実績

- 異文化交流(小学生対象) 4回
- 中学生と留学生の英語による交流事業 5回



**小学生の異文化交流事業**  
スリランカ



**中学生の英語交流事業**  
歌やゲームで楽しもう



**小学生の異文化交流事業**  
英語であそぼう



**中学生の英語交流事業**  
国連環境計画UNEP専門官を迎えて

## 評価

英語や外国に対する関心が高まったと回答した参加者の割合

目標

60%  
以上

結果

98.3%

参加者からは好評であったが、参加者が毎回約15名程度と少なく、成果を享受できるのは、一部の子どもに限られている。

## 29年度の 取組み

- 平成29年度から小学校低学年においても英語活動が開始されることを受け、中学生英語交流事業の講師による小学校での英語活動の取り組みや、英語教材(絵本・DVDなど)を購入するなど、小学校の授業における英語活動の積極的な展開を図っている。
- 青少年カーニバルとつるみワールドフェスタを同日開催し、より多くの子ども達が異文化にふれる機会を創出する。



# 学校と社会を結ぶ

## 計画

区内企業・経営者・スポーツ選手の方々のもつ知識や経験談を、区内小中高校生に伝えてもらう。

## 目標

「夢・未来創造事業」を通じて、興味、関心が高まったと回答した参加者の割合を60%以上

## 実績

- ・ 青少年「夢・未来」講座の開催  
9校（延べ99回）



J:COM  
報道番組



ミズノ(株)  
走り方教室



牛乳石鹸共進社(株)  
手洗い教室



UNEP国際環境技術センター  
環境問題



## 評価

「夢・未来創造事業」を通じて、興味、関心が高まったと回答した参加者の割合

### 目標

60%  
以上

### 結果

96.0%

企業等が出前授業を実施できる回数に限りがあるため、学校からの要望に対して、対応できない場合がある。

## 29年度の 取組み

- 協力企業等を増やしたり、新たなメニューの授業を展開できるよう企業等に働きかけ、より多くの児童・生徒が体験できるように取り組んでいる。

### 【新たな協力企業等】

・大阪ガス(株)(環境学習・防災学習)・汎愛高校ダンス部(ダンス教室)・鶴見消防署(防災学習)

### 【新たなメニュー】

ミズノ(株)(ボールの投げ方、幅跳び)



## 【経営課題全体としての評価総括(自己評価)】

- 安心して子どもを生み、育てられる環境づくりには、地域・関係機関との連携を推進する必要がある。
- 児童虐待防止に向け、関係機関と連携を図るとともに、啓発活動を推進する必要がある。
- 保育ニーズの高まりに対しては、関係局と連携し、保育環境の充実に努める必要がある。
- 次世代を担う子ども・青少年が、将来への夢をふくらませ、健やかに成長できるよう、家庭・学校・地域が連携を図り、継続的に取り組む必要がある。